

<p><b>【学校教育目標】</b></p> <p>夢の実現に向け、基本を身に付け、 友だちと共に元気に学ぶ児童の育成</p>
---

<p><b>【本年度の重点目標】</b></p> <p>－ 学校経営 －</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決に向けた教職員組織の連携強化</li> <li>○教育課程の計画的実施及び学力向上プランの日常化</li> <li>○自主研修の推進と主題研究における理論の構築</li> </ul>	<p>－ 教育指導 －</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標に向かって意欲的に取り組む児童の育成</li> <li>○ 自分から誰にでもはっきりとしたあいさつができる児童の育成</li> </ul>
--	--

領域	項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組織運営	学校経営全般	「目指す児童像の具現化に向けて、校務分掌が適切に機能している。」 <b>【結果】</b> 教員A B評価…89% (昨年度比+4P)	4	子どもたちは、明るく活動的になっていることは感じている。	年度当初に、各部・各係の役割分担の共通理解を図り、学期ごとに評価・改善を行う。
		「校務分掌組織において、各分掌部会内の係が内部で連携し、協働体制で部会の取組を行っている。」 <b>【結果】</b> 教員A B評価…82% (昨年度比+0)	4	適正に評価されている。	定期的に会議を設定し計画的な運営ができる環境を維持していくためにも、短期的及び中・長期的な見通しをもって日程調整を行う。
		「会議等の運営状況は、適切である。」 <b>【結果】</b> 教員A B評価…68% (昨年度比-8P)	3	外部からはわからない項目である。評価のしようがない。ただし、話し合う時間は大切に。	毎月1回開く校務分掌部会や各種委員会の情報を、毎週月曜日に開く同学年部会議で確実に伝達できるようにする。また、運営委員会や職員会議での提案内容を焦点化する。
	総合所見	3つの評価指標の教員A B評価が、昨年度と比較すると上下している。これは、1週間ごとの短期的な見通し不足や中・長期的なスパンでの学校経営に課題があったと捉えている。次年度は、見通しをもった打合せ、連絡・調整に重点を置く必要がある。			
教育	基本を	「一人ひとりが分かる喜びを味わい、楽しい授業づくりを進めている。」 <b>【結果】</b> 教員A B評価…86% (昨年度比+6P)	4	アンダーアチーバー児童に対しての「書く活動」の位置付けについての評価は、効果的であることがうかがえる。継続をお願いしたい。 「なぜ?」と思える、考えることができる提案を先生の側からお願いしたい。	次年度も、「書く活動」を位置づけることによって、児童が問題意識を持ちながら思考する学習活動の確保や学習の振り返りの重点を置いて指導を行う。また、アンダーアチーバーの児童への支援も同時に行う。

課程・学習指導	身に付け、大事にする子ども	<p>「国語・算数において、振り返り活動を毎時間位置付け、児童の学びを見取っている。」 【結果】教員A B評価…75%（本年度より新たな評価項目）</p>	3	「書くこと」も大事ですが、その中身を考えること、振り返りは大切なこと、一番大事なことなのではないか。	一単位時間の見通しをもつこと。特に、ねらいを明確にして授業づくりに努める。特に、書くことを含めた思考する手立てを講ずる。また、確実に振り返りの活動を位置づける（残り5分間）。
		<p>「家庭学習の習慣が身に付くように、日常的に指導している。」 【結果】教員A B評価…96%（+4P）</p>	4	適正に評価されている。	※次年度継続 家庭学習の指導の徹底が不登校の要因にならないように配慮しつつ、 <u>10分×学年+10分</u> という家庭学習の時間目標及びその内容を確認し、称賛活動を取り入れながら指導を継続していく。
	総合視	教員は、児童に「分かってほしい」という思いで学習指導を行っている。しかし、児童の実態は様々であり、その実態に応じた授業づくりが重要である。また、家庭学習の習慣化については、これまでの取組を着実に進めていくとともに、固定化している家庭学習の未定着の児童への支援の仕方を、さらに、考えていく必要がある。			
じっくり考え、表現できる子ども		<p>「いじめ早期発見アンケートをもとに、いじめのない学級づくりを行っている。」 【結果】教員A B評価…96%（昨年度比+7P）</p>	4	適正に評価されている。	※次年度継続 教員の意識が高くなれば、いじめの認知は増えてくる。このことを、年度当初に、全職員で共通理解を図る。また、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に全力で取り組むことも共通理解を図る。
		<p>「自分の考えをノートやプリントに書く場面や交流の場面など言語活動を取り入れ、児童の思考力・判断力・表現力の育成に努めている。」 【結果】教員A B評価…82%（本年度より新たな評価項目）</p>	4	適正に評価されている。	間違った判断による言動については、日常の指導・事後の丁寧な指導を心がけて指導する。
		<p>「時と場に応じた正しい言葉づかいができるように指導している。」 【結果】教員A B評価…71%（+6P）</p>	3	本当に家庭の協力が一番だと思う。定期的な振り返りを重ねていくこと。 朝のあいさつを元気に行っている児童が多くなっている。	継続的な指導とともに、称賛活動を行う。また、家庭（保護者）の協力も促す。さらに、定期的な振り返りを確実にやる。また、あいさつ運動も継続して取り組む。
		総合視	「いじめのない学級・学校づくり」については、一定の評価が得られているが、「正しい言葉遣い」については、課題が残る。まずは、教員の言語環境を整えることを意識しながら、日々の授業を中心とし、日常の細やかな指導の積み重ねや称賛活動を大切にしていきたい。		
		<p>「授業やテストで難しい問題があっても、自分の考えをノートやプリントに書くよう指導している。」</p>	4	適正に評価されている。	一単位時間内、特に、児童に考えをやらせる場面と振り返りの場面に位

元気でたくましい子	【結果】教員A B評価…82% (本年度より新たな評価項目)				置付けるよう徹底を図る。
	「回数や時間など目標を設定し、自己の体力的課題の克服を意識した体育科の授業づくりを行っている。」 【結果】教員A B評価…86% (本年度より新たな評価項目)		4	適正に評価されている。	スポーツ振興課との連携を図りながら、コーディネーショントレーニングの指導の在り方を考えていく。
	「学級活動で自分たちで目標を設定して取り組み、達成感を味わう活動を行っている。」 【結果】教員A B評価…79% (本年度より新たな評価項目)		3	適正に評価されている。	本県の「鍛えよう！ほめよう！プロジェクト」の取組を柱に、取り組みを焦点化し共通理解を図りながら進めていく。
	総合所見	すぐに諦めるのではなく、心の耐性を徐々に身に付けさせていく。特に、目標（めあて）を持たせながら、学習や取り組みを進めるとともに、必ず振り返りの場（称賛活動）の位置付けが重要となってくる。			
生徒指導・保健安全管理	「学習規律の確立など、規範意識の醸成に努めている。」 【結果】教員A B評価…96% (本年度より新たな評価項目)		4	適正に評価されている。	教員の意識のずれがないようにするためにも、年度当初、学期末等に確実に確認を行う。また、児童の様子から必要に応じて確認することも必要である。
	「生徒指導に取り組む体制が、整備されている。」 【結果】教員A B評価…86% (－6P)		4	適正に評価されている。	担任→担当→管理職、生徒指導委員会の開催（情報共有）の流れを確立する。
	「保護者や地域社会、関係機関などとの連携協力ができるよう努めている。」 【結果】教員A B評価…86% (－11P)		4	適正に評価されている。	コロナ禍であっても、どのような連携強化ができるのか模索していく。
	総合所見	教員のA B評価が、3つの評価指標の全てで90%を上回り、その成果を実感している。引き続き現在の体制を維持し、保護者や地域社会・関係機関と連携しながら、生徒指導の充実を図りたい。			
保健・安全管理	「定期的に安全点検を行い、安全管理に努めている。」 【結果】教員A B評価…96% (昨年度比－2P)		4	他の小学校で教師がAED操作で子どもを助けたニュースがあり、職員全員がAED操作ができるのが望ましい。	※次年度継続 毎月の安全点検の後に、点検を受けて改善された箇所、今後改修が必要な個所を一覧表にまとめ確認できるようになった。このシステムを継続する。 救命・救急講習会（AED操作）の職員研修を行う。

		「児童の安全確保や事故の未然防止に積極的に努めている。」 【結果】教員A B評価…96%（昨年度比+4P）	4	適正に評価されている。	※来年度も継続 日常の安全点検や報告、改修や未改修等の確認を確実にやっていく。
	総合所見	教員のA B評価が、昨年度同様、2つの評価指標で90%を上回り、その成果を実感している。引き続き現在の体制を維持し、全職員で児童の保健・安全管理の充実を図る。			
研 修 ・ 権 働 教 育	主 題 研 修	「主題研修が計画的に進められ、授業改善に努めている。」 【結果】教員A B評価…96%（昨年度比+16P）	4	適正に評価されている。	来年度の研究も道徳科の予定であり、道徳科での授業づくりが他の教科等へ転移できるよう、共通実践を進める。
	・ 権 働 教 育	「人権・同和教育が計画的に進み、日々の児童の教育にいかすことができている。」 【結果】教員A B評価…86%（昨年度比-4P）	4	適正に評価されている。	本校では様々な課題はあるが、実態に応じた取組を継続、また、新たに構築していく必要がある。特に、一人一人の児童の居場所づくりを基盤にしていく。
	総合所見	研究主任と人権・同和教育担当教員を中心に、取組が進められ、本年度も教員のA B評価が80%を超えることができた。これらの取組を継続し、授業の改善と児童の豊かな心の育成を図っていきたい。			
連 携 ・ 教 育 環 境	そ の 他	「学年・学級だより等で子どもの様子を知らせ、連携を深めている。」 【結果】教員A B評価…96%（昨年度比-1P）	4	適正に評価されている。	※次年度継続 毎週発行する学年・学級だより、毎月発行する学校だより及びホームページの更新を継続する。
		「学習・生活環境の整備に努めている。」 【結果】教員A B評価…89%（昨年度比-3P）	4	適正に評価されている。	年度当初に、常に、子どもの側からみた環境（物的・人的）整備に目が向くよう共通理解を図る。
	総合所見	2つの評価指標に対して、保護者からも高い評価を得ることができた。保護者や地域の皆様とのつながりを大切にするための広報活動と、子どもたちの日々の学習環境と生活環境の整備を、今後も充実させていく。			